

2 地域の創意と工夫で進める生産基盤の整備

(1) 地域みんなで創る農村計画

農業者や地域住民が主体となって、地域の農業農村の特色を活かし、整備にあわせた地域の多様な取組が実践されるよう、地域農業や農村の活性化に関する地域将来構想に基づく整備計画を策定していきます。

H21まで

○経営体の育成を目指した整備計画の策定

ほ場整備事業等では、経営体の育成や環境との調和に配慮した整備について、地域の合意形成を図りながら計画を策定してきました。

・計画地区数 29地区

(※H15以降着工の経営体基盤整備事業の地区数)



営農検討部会

H27まで

○地域将来構想に基づく整備計画の策定

ほ場整備等の要望がある地区について、[※]ワークショップの手法を活用し、地域農業の現状分析や地域資源の発掘、課題の抽出を行い、農村の活性化に向けた将来構想や、これに基づく整備計画を策定していきます。

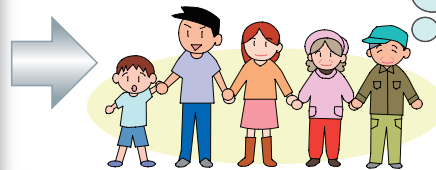
整備計画策定をきっかけに、地域の将来像を描く



地域点検



ワークショップ



整備計画にあわせ多様な取組を計画

将来像

○目標指標

・地域将来構想を策定する地区数

(※H21までは、農村振興基本計画等を策定した地区数)

平成21年度
13地区



平成27年度
20地区

○将来像

農業者や地域住民が、地域を見つめ直し、地域の将来を描いた構想に基づき、人々が生きがいを持って活躍しています。

※「ワークショップ」とは、参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究集会のこと。

(2) 基盤整備を契機とした担い手の育成と農地集積

土地利用型農業を支える農地の大区画化や排水条件の改良による水田の汎用化等、地域のニーズに応じた農地の高度利用を可能とする生産基盤の整備と担い手への農地集積を推進します。

H21まで

○生産基盤の整備による優良農地の確保

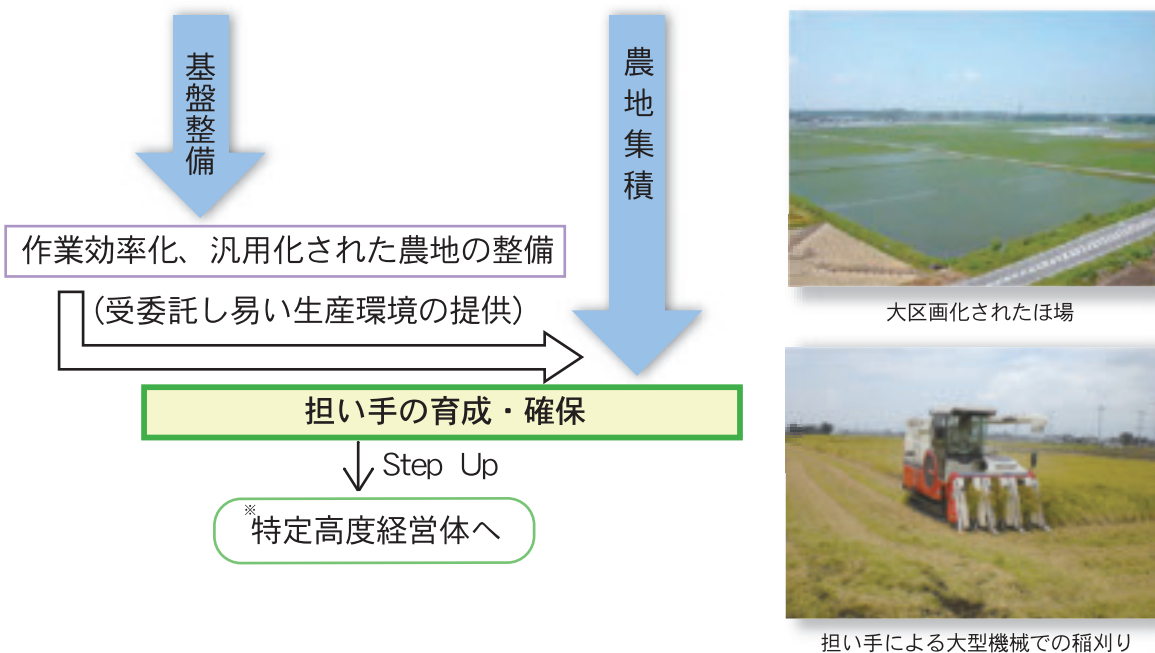
ほ場整備事業による整備状況

- ・農振農用地内の水田整備面積 (ha) 58,072 ha (整備率70.4%)

H27まで

○生産基盤の整備による効率的な農業経営の実現に向けた担い手への農地集積の取組

ほ場の大区画化等により農作業の効率化や汎用化が図られ、農地の貸借や農作業の受委託が行われる生産環境を提供すると共に、関係機関と連携し農業者を対象とした農地集積に関するPR活動や研修会等の開催により農地の集積を推進します。



○目標指標

- ・汎用化された水田面積
- ・担い手への農地集積増加面積

	平成21年度	平成27年度
汎用化された水田面積	1,384 ha	2,500 ha
担い手への農地集積増加面積	252 ha	800 ha

※平成15年度以降着工のほ場整備事業地区

将来像

○将来像

基盤整備を契機に担い手への農地集積が進み、大規模な農業経営体が育成されるなど効率的で安定した地域農業が確立しています。

※「特定高度経営体」とは、個人経営で10ha以上、生産組織等で25ha以上の経営面積となる担い手のこと（農業経営高度化支援事業の要件）。

(3) 地域のニーズに合った低コストな農業農村整備の展開

営農コストの低減に向けて基盤整備を推進するとともに、地域の実情に合わせた整備を自らが行う「簡易な整備」を取り入れるなど、地域のニーズに合った低コストな農業農村整備を進めていきます。

H
21
まで

- 効果的かつ経済的な農業農村整備事業の推進
入札・契約制度の適正化や公共工事のコスト縮減に取り組みました。
・公共工事のコスト縮減(栃木県全体、基準年 H16) 15.5%
- 営農コストの低減に資する工事手法の活用
営農コストの低減に資するため、ほ場の大区画化を推進しました。
・ほ場の大区画化面積 8,921ha
- 簡易な整備の推進
*グラウンドワーク活動等への支援を行いました。また、直営施工の実施に向けて、平成22年4月には直営施工実施要領を制定しました。
・グラウンドワーク活動等への支援 37件
・*直営施工の実施 2件

H
27
まで

○効果的かつ経済的な農業農村整備事業の推進

公共工事のコスト縮減に努めるとともに、品質確保を徹底します。



グラウンドワーク活動で造られたため池の付帯施設

○営農コストの低減に資する工事手法の活用

ほ場の大区画化や自動給水栓の導入など営農コスト低減を図るとともに新技術工法の活用を推進していきます。



直営施工の実施

○地域の力を活かした簡易な整備等への支援

地域の発意による簡易な整備に対して積極的に支援していきます。

○目標指標

	平成21年度	→	平成27年度
・ほ場の大区画化面積	8,921ha		9,700ha
・直営施工やグラウンドワーク活動等の取り組み件数	39件		76件

○将来像

地域に合った低コストな農業農村整備や地域発意による簡易な整備が行われており、営農経費は節減されて良好な農村環境や農地が維持されています。

*「グラウンドワーク」とは、多様な地域主体の協働による地域資源を活用した地域住民活動等のこと。

*「直営施工」とは、請負に依らず、地域住民等の労力提供により事業主体が自ら工事を行うこと。

将来像